

# 和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地  
国立療養所 奄美和光園  
電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230  
URL <http://www.nhds.go.jp/~amami/>

平成29年9月1日  
(2017)

第106号

■表紙	1
■園外レクリエーション	2
■思い出作り活動(七宝焼き)	3
■ミニ運動会	4
■第25回奄美和光園夏祭り	5～6
■花火大会	7
■七夕会	7～8
■ふれあい看護体験	9
■舟漕ぎ大会を終えて・親子療養所訪問	10
■防火避難訓練の実施	11～12
■八月踊り(節踊り)	12
■職場体験学習受入について	13
■ハンセン病を正しく理解する週間	14
■NST News Letter	14～15
■平成29年度診療統計	15
■人事異動・和光園日誌・編集後記	16

## 基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



大熊港の夕日

## 基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療 さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

# 園外レクリエーション

7月20日(木)、恒例の園外レクリエーションがあり、今回は久しぶりに奄美大島大和村方面に行きました。そのせいいかわくわくしてなかなか眠れなかつた方、朝早く目が覚めたという方、今日の昼食のために夜中3時に起きてお手製の塩豚を準備してきたという方など、それぞれの思いをのせて和光園を出発しました。

これまでのレクリエーションの景色とは違い、バスから海岸を眺めながら山の中へと進んでいきました。途中「こんな所に滝がある！」と川上の流れを見て驚く声が響いていました。また、どこからか飴やお菓子が配られ、演歌のバックミュージックに合わせてみんなで一緒に歌うなど、まるで修学旅行のような気分でした。バスに揺られ1時間程すると広い敷地にあるフォレストポリスに着きました。入り口から出迎えてくれたのは、ギンヤンマや木登りトカゲ達でした。緑に囲まれた自然の中、川のせせらぎや鳥のさえずりを聴きながらゆっくり散策し時間を忘れてしまうほどでした。「たまにはこんな景色もいいな」と入所者の方々の声が聞かれました。ひと回りしたとこ



ろで楽しみにしていた昼食を摂りました。お手製の塩豚が回ってくると、「懐かしい味だね」「これを楽しみにしていたのよ」とみんなで美味しく頂きました。休憩後は奄美野生生物保護センターを見学しました。館内は奄美固有の動物や鳥、草花、固有種の危機的状況がわかりやすく展示されていました。入所者の方は興味深く見学され、熱心に話を聞いたり、クロウサギの剥製を見て「本物みたい」「初めてみた」とびっくりされたりしていました。

帰路では山道のバス酔いを心配していましたが、無事に帰ってくことができました。次回も自然を満喫でき、懐かしい景色や思い出の場所に多くの入所者の方々が参加できることを願います。

病棟看護師 直原 千里



# 思い出作り 七宝焼き活動

平成29年6月13日、あいにくの雨となりましたが入所者14名の参加を頂き、七宝焼き活動を行いました。

まず、事前の準備体操を目的としたラジオ体操の時間では、「今日は七宝焼きをしにきたんだよ。」と、“はやく七宝焼きがしたい”との希望の声が聞かれ、私は進行を急ぐ事となった程、皆様やる気が漲っていました。そして体操が終わり、七宝焼きの準備がされている机へ案内すると、着席早々進行役の私の声が届かなくなるほど、各自で「どんな色にする？」などの話が弾み、にぎわっていました。その中で何とか一通り、焼く工程までの作業内容を説明した後、作業開始となりましたが、この時間は全員勇ましい表情をしており、各自で一生懸命に作業に取り組まれていました。その姿からは、一人ひとりが自ら作業を生み出す姿、自分なりの進め方や色の具合を考えながら



手を動かしている姿など、作業療法士として喜びを感じられる姿ばかりでした。しかし、喜びを素直に感じられたのは束の間で、次から次へと“完成しました”と手が挙がり始め、スタッフ共々大忙しになり、それからというもの、あっという間に時間が過ぎてしまい、文章に起こす程の記憶がありません。ただ、とても印象に残っているのが、完成した作品をお互いが見せ合いながら話し込む姿や実際に身につけて出来栄えを確かめ合う姿でした。世界に一つだけの作品となったその色や模様は、なぜか作った人に似合う色へと変化しているようにも感じました。その人なりの進め方や想いを込めて作られた完成作品は“自分らしさ”が現れたのではないでしょうか。

最後に参加して下さった入所者の皆様、および協力頂いた皆様と共に楽しみ合えた事が一番の良い思い出となりました。本当にありがとうございました。また一緒に物作りに挑戦してみたいものですね。

作業療法士 中川 恭兵





6月29日木曜日、あすなろホールにて第三回ミニ運動会が開催されました。加納園長の開会宣言の後、午前11時より競技が始まりました。競技のトップを飾るのは奄美保育園に通う5名の園児達でした。小さいながら堂々とした選手宣誓、続くパン食い競争、宝釣り競技と、保護者と一緒に一生懸命頑張っていました。その姿を見て入所者、職員共に笑顔で園児に声援を送っていました。

園児達の競技が終わり、全員お待ちかねの昼食タイム。日頃、大勢で食事をする事がないので、入所者と職員が和やかな雰囲気の中で楽しく昼食をとることができます

した。行事食を作ってくれた給食職員の皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。

昼食休憩を終え、午後からは入所者と職員が一緒になって様々な競技を行い、笑いが絶えない運動会になりました。これからも様々な行事を通して入所者に楽しんでいただけるような企画・運営をサービス委員の一員として取り組んでいきたいと思います。入所者のみなさん、職員の皆さん、今日はお疲れ様でした。

サービス委員 黒木 貴雄



# 第25回 奄美和光園夏祭り



7月27日(木)夕方より、和光園夏祭りが開催されました。開催冒頭の加納園長の「今日は一日笑って過ごしてほしい。和光園の入所者も奄美市民の一員として地域に溶け込んでいくよう努力している。」との挨拶で始まりました。次に来賓代表として奄美市長(代読:副市長)から、「奄美和光園が開かれた療養所として地域住民との交流を計られており、皮膚科診療では地域医療へ尽力されている。和光園の夏祭りが夏の風物詩として地域住民とのふれあいの場として楽しみの一つになっている。」とお話をありました。

園長、来賓代表の挨拶を終えてから余興の部に入り、第1演者は各行事にいつもボランティアでお世話になっている島唄三味線教室の生元高男さんから始まり、三味線と太鼓の音色に合わせて力強い歌声を披露していただきました。第2演者は保育所園児によるアンパンマン音頭で園児4名がステージに登場し、小さな体でくるくると回りながら元気な歌声で会場を楽しませました。第3演者は入所者によるカラオケで、いつも練習に励んでいる賜物なのか堂々と貫禄ある姿で、安定した味わい深い歌声で会場内を沸かせました。入所者は他3名の方がステージで歌声を披露いたしました。第6演者では奄美市教育委員会による大勢のメンバーで「興そよ島を」の歌を熱唱していただきました。第8演者では数々の民謡民部大会で受賞された実力派の楠田莉子さんによる奄美民謡とご自身作曲によるフォークソングを透明な美しい伸びやかな歌声で魅了されました。第11演者の事務長他コメディカルによる「HAGI DANCE」では第3幕まで構成されており、白と

黒のタイツとミニスカート姿の職員8名がステージに現れました。第1幕は「クシコス・ポスト」の曲に合わせて足を上げて横に移動しながらコミカルに踊ったと思うと40秒経過してすぐ静かに幕の中に消えていってしまったので、会場内のお客さんから「終わりかい?」といった言葉が聞こえてきました。幕が閉じてすぐに、第2幕が始まり今度は趣向が変わって馬場医長によるソロ「ハバネラ」の曲に合わせてテーマ「花魁」の踊りが始まりました。花の妖精のような日舞風ダンスと軽やかな下駄のタップダンスを織り交ぜてのミュージカルダンスでした。第3幕は「天国と地獄」の曲に合わせて8名と馬場医長のコラボレーションで登場し元気な掛け声に合わせて足を高く上げての踊りの内容に会場で拍手喝采がわき起きました。第13演者の治療棟職員with総看護師長室では、全員が金ピカのピコ太郎の衣装を着て、曲に合わせて島の言葉を使ってのゼスチャーを交えるアイデアを生かしたパフォーマンスでした。そしてプログラムの最後は、「島のブルース」、「六調」の曲に合わせて会場全員が輪になって踊って盛り上りました。

おかげ様でたくさんの地域住民の方々の参加をいただき、和光園夏祭りは総勢650名もの人で賑わいを見せることができました。

福祉室長 磯部 武嗣



# 花火大会

昨年は大雨に見舞われ途中で中止となり、そして今年も台風5号の影響によりなかなか天気に恵まれない中、ようやく1週間延期で8月10日に花火大会が開催となりました。

入所者5名の方といっしょにマイクロバスに乗って長浜緑地公園へ向かい花火を見に行きました。公園の目の前はすぐ海で、定期船が夕暮れの中、明かりを灯しながらゆっくりと名瀬港へ入って行きました。

夜の8時を回ると突然「ドン」と大きな音が鳴り響き、色とりどりの花火が夜空に上がっていました。花火が打ち上ると同時に夜空を見上げる入所者からも「ワー」と歓声が聞こえてきました。

奄美市の花火を見る時間はあっという間に過ぎていきましたが、夏の日にふさわしい充実したひと時を味わうことが出来ました。

福祉室長 磯部 武嗣



残暑が続く8月15日(火)に七夕会が行われました。昨年と同様、数日前より各部署から七夕飾りを持ち寄り、中央廊下から渡り廊下にかけて10本の笹を設置しました。いつもは通行するだけの廊下が色鮮やかな七夕ロードに変わりました。涼し気な青一色で飾られた七夕飾りや、折り紙を様々な模様に模ったものや金魚、鶴、星などを折った飾りを糸でつないだ飾りな



ど、昨年よりもきれいで工夫されたものが多く各部署とも力作揃いででした。

当日は入所者に職員が付き添い、願いを込めた短冊の取り付けと七夕飾りの品評会の投票を行いました。入所者からは

「どれもきれいで選ぶのは難しいね」「この飾りはどうやって作ったの？もっと近くで見せて」などの言葉が聞かれ、七夕飾りを眺めながら職員とどの七夕飾りに投票するか相談したりするなど、それぞれ楽しむ様子が見られました。

案内所では給食室特製の七夕ゼリー（ヨーグルト味・オレンジ味）も配られ、入所者みなさん喜ばれていました。屋内での展示であるために天候に左右されないこともあり、七夕飾りを設置している期間は入所者と何度も足を運び楽しい時間を共有することができました。

各部署の投票結果は、金賞（治療棟）、銀賞（病棟）、銅賞（ゆらいの郷）でした。入所者ならびに職員の皆様、御協力ありがとうございました。来年もまた、入所者の皆様と一緒に楽しく七夕飾りを見られますよう星に願いを込めて…☆

サービス委員 下川 満





## ふれあい看護体験

7月24日(月)に、鹿児島県立大島高校生8名を迎えて「ふれあい看護体験」が行われました。これは、「看護の日」制定記念事業の一つとして、学生や一般の方に実際の看護の場を体験していただき、患者様とのふれあいを通して看護する事や、人の命について理解と関心を深めることを目的としたものです。本来、「看護の日」は近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由來した5月12日となっておりますが、奄美和光園では、夏休み期間を利用して行っています。実は、私も以前に同じ体験をしました。そして、その時の仲間と昨年、和光園で再会し共に看護をしています。

暑い中、午前中の夏期課外授業を終えた学生さんが午後に訪れ、白衣に袖を通しナースキャップを被った時のほころぶ顔がとても印象的でした。

1時間半という短い体験時間の中で、血圧・脈拍測定や車椅子などへの移動介助体

験、レクリエーションでの入所者とのふれあいを通して看護の役割、命の尊さを感じ、人生の岐路に立つ学生さんの進路について考える機会としました。ある学生さんは、「いつも通るだけの和光園の中の様子を見ることができ、看護師として役割を果たす場所が色々あることを理解できた。」と話していました。初めて聴診器で聴く心臓や肺の音、脈の速さに「正常ですか？」と興味深い目で質問していました。親から授かった命、健康であることに感謝し五感を最大限に活かして、誰かのために活躍できるようエールを送り学生さんを見送りました。

入所者の皆様には、看護学生や中学生そして今回の高校生を、いつも笑顔で出迎え優しい励ましの言葉をかけて下さり、感謝申し上げます。

実習指導担当者 吉田 美和子



## 舟漕ぎ大会を終えて

時が過ぎるのもはやいもので8月となり、今年も日差しが強く暑い夏が過ぎています。この夏真っ只中の8月11日に舟漕ぎ大会が行なわれました。

私は今回の舟漕ぎ大会で2度目の参加となつたのですが、今回は皆様からのご指名を頂き、嬉しいことにキャプテンとして舟漕ぎに挑む事となりました。

当初の舟漕ぎ大会の日程は8月5日予定だったのですが、台風の影響で翌週へと延期となってしまいました。大会が中止にならなかつたのは幸いでした。個人の都合にて大会に出場できなくなってしまうというメンバーが続出てしまい、舟漕ぎに必要とするメンバーさえも集まらない状況へと一時は陥ってしまいました。そんな状況の中、どうにか戦いたいと願うメンバーの中には飛行機の便をずらしてまでも大会に参加される方もいらっしゃり、改めて大会に向かた熱い思いを知る事ができ、我が心も高鳴りました。

大会当日、和光園チームとして男子はA、Bの2チーム、女子はAチームの1チームで舟漕ぎ大会に臨みました。私は両チームで舟を漕ぎましたが予選を通過することは出来ませんでした。

た。女子チームも折り返し地点までは1位だったのですが、強風に舟が煽られ惜しくも予選通過とはなりませんでした。どのチームも予選通過とはなりませんでしたが、皆さんと一緒に舟を漕ぐことが出来た事が良い思い出となりました。

大会当日は照り返す暑さで体力をとられましたが熱中症や怪我をする方もおらず、無事に終了することができました。暑い中、応援に来て頂いた方、またお弁当や飲み物、スイカなどの差入れまでして頂いた方、そして遠くから差し入れを届けて頂いた元メンバーへ、本当にありがとうございました。また、キャプテンとしてしっかり任務を全うできたかわかりませんが、皆様の支援をたくさん頂き、最後まで誰一人として怪我等もなく、大会を楽しく終えることが出来たことを心から嬉しく思います。

最後に舟漕ぎキャプテンとして、共に戦ったメンバー、そして協力と応援をして下さった方々へ、心より感謝申し上げます。また来年頑張りましょう。

研究検査科 川崎 岳史

## 親子療養所訪問

毎年の鹿児島県の企画行事として、8月24日に親子療養所訪問があすなろホールで開催され12名が参加されました。

始めに加納園長より和光園の設立の経緯、入所者数の動向、そして強制隔離のあった時代から「らい予防法」が廃止された今日までの状況の説明がありました。

その後は参加者全員にゆらいの郷（不自由者棟）、病棟、治療棟の部署まで足を運んで、入所者の生活の場を見学していただきました。

全体交流では、3グループに分かれた参加者に入所者と職員が加わり入所者の体験談を通してそれぞれの思いを語りあうことで、お互いの気持ちの理解をより深めていくことができました。



和光園入所者も高齢化が進んでいる中、親子療養所訪問事業を当療養所と地域住民との交流行事の一つとして今後も続けていくことの大切さを実感しました。

福祉室長 磯部 武嗣



# 防火避難訓練の実施

去る7月13日(木)13:30より、平成29年度第1回目の防火避難訓練を行いました。毎年度ですが第1回目は総合訓練（通報、消火、避難。※昼間）となります。

火元は病棟、不自由者棟とで交互に行っており、今回は病棟となりました。ただこのご時世「火」を取り扱う設備がないため、火元となる場所の選定に悩みました。個室、食堂等は出火の可能性がほぼなく、強引に理由をつけて、洗濯室にしました。（乾燥機の電気系統から出火？）

消防署員の立ち会いの下実施、となっているのですが、当日出火想定時刻が迫っているのにもかかわらず、署員の方がなかなか見えず、担当者としてもうハラハラしていました。署員がみえたのは13:25、一応間に合ったとは思ったのですが、今までなかつた質問が…。

署員「火事発見者からの連絡方法は？」

私 「現場が所持しているPHSです。」

署員「それは使用しないでください。火災時には設備もダウンという認識でお願いします。」

私 「そうなると連絡は？」

署員「火報の場所に電話がありますので、それを使うようにしてください。」

……現在13:30 訓練出火の時間です。  
(でも火付けできません！！！)

署員と出火現場になっている病棟へ。そして現地での説明が始まりました。電話機の差し込み場所等確認しながら、説明受けましたが、時間が過ぎているため私はなかなか説明に集中できませんでした。

私に限らず、出火時刻をとうに過ぎているため周りがざわつき始めており、「もしかしてフライング？」に思える面々が…。

説明も終わり、やっと出火！映画撮影のような「スタート！！」感満載の訓練開始でした。そして、説明通り火災用の電話を

使用したところ、相手が出ません。「何故に？操作誤り？設備不良？」。ぐるぐると思考回路ショートするくらいの脳の混乱が。（実は、消防設備の親機は当直室であり、電話は当直室にかかっていたとのこと。）想定外のハプニングもありましたが、現場のとっさの対応で庶務への連絡はなんとか行えました。そこからは通常訓練通り、消火、通報、避難とそれぞれ適切な対応だったと思います。

避難完了、鎮火報告をもって、防火避難訓練は終了しました。講評をまとめると、「避難経路は火元から遠いところに」という認識があつてよかったです。「消火作業に関しては、よかったです。」「消防への通報に関しては、便利な設備をフルに使っていただきたい。（自動音声通報等）」ということで、今後に活かせるよう意識したいと思います。

講評後に消火器の取扱説明と実際に消火器を使っての消火訓練を行い、その後屋外消火栓の取扱説明と実際に放水を行いました。放水は女性に行ってもらい、放水の圧力を体験してもらいました。

実際に火災が起きたら訓練通りに行えるかは日頃の「意識、認識、訓練経験」だと思います。また、「火を出さない。」ことも重要です。想定や予防できることは日頃から対処していくべきだと思います。

庶務班長 堀口 広文





## 八月踊り（節踊り）

8月26日(土)17:00、ゆらいの郷玄関前で有屋町内会の方々による八月踊り（節踊り）が開催されました。

伝統行事である奄美八月踊りの由来は、五穀豊穣への祈りと感謝の気持ちを捧げ祝福を願う祭りだと言われております。各集落ごとで各家々を回り、老若男女が円陣を組んで三味線と太鼓に合わせて踊ります。踊りの内容やかけ声も集落ごとで特色があり異なっております。

ゆらいの郷玄関前に町内会の踊り手の団体が現れて、マイク放送で大きな声が聞こえると、入所者の方々がぞくぞくと集まってきました。会場は三味線と太鼓、唄がはじまり、たくさんの踊り手の人達で熱気に包まれました。なかには一緒に



輪に入って、柔らかく動き上手に踊り歩く入所者の方もおられました。

今日1日おかげさまで、踊り手の皆様より夏の暑さを吹き飛ばす元気を与えられました。

福祉室長 磯部 武嗣

# 職場体験学習受入について

当園として初めて「職場体験学習」を受け入れました。期間は平成29年6月6日～8日の3日間で、龍郷町の龍南中学の2年生男子1名。4月末頃先方の中学校より連絡があり、園としてはもちろん私自身も初めてのことでありましたが、面白そうという感覚もありました。

受入に際し先方に希望部署を伺ったところ全部署との希望がありましたので、各部署の都合等を聴取し、ほぼ全部署網羅するスケジュールで、午前・午後2部署ずつの予定を組みました。都合を問い合わせる際、受け入れる部署の側も興味半分心配半分の感じが見受けられました。

	午 前	午 後
6月6日 (火)	①治療棟 ②薬剤科	①リハビリ ②福祉室
6月7日 (水)	①検査科 ②放射線科	①病棟 ②栄養
6月8日 (木)	①ボイラー・電気 ②庶務会計	①不自由者棟 ②その他

配置換えや採用等のレクチャー（指導）と違い、各部署の担当者においても嬉しうれしかしの感じで進んでいっておりました。生徒のほうも当初緊張の面持ちでしたが、時間が経つにつれて慣れてきたのか



部署の担当者の魔法の言葉なのか、笑顔、驚き、照れ笑い、食いつくような眼差し・・・、いろんな表情を見せてくれました。

多感で繊細な中学2年生。受け入れる側も難しかったかとは思いますが、人と付き合う意味では本人同様勉強になることばかりだったと感じています。もし希望有るなら、来年も受け入れて良いのではないかと考えています。その際はまた皆さんのご協力をお願いします。

～追伸～

とあるカッコイイお兄さん（の職？）に憧れが芽生えたそうです。

庶務班長 堀口 広文



# ハンセン病を正しく理解する週間

「ハンセン病を正しく理解する週間」（6月18日～6月24日）においてパネル展示が奄美市役所と県立奄美図書館で開催されました。

展示場では、和光園自治会からのご意見、夏祭りや敬老会等の園行事、旧納骨堂等の和光園の昔の写真を紹介させていただきました。地域住民の方々が和光園やハンセン病問題の歴史について少しでも興味を持っ



ていただき、正しく理解を深めていくのにお役立てることができれば幸いでございます。

末筆でございますが、この場をお借りしまして、ご尽力いただきました鹿児島県および奄美市職員の皆様に感謝申し上げます。

福祉室長 磯部 武嗣



## NST News Letter

No.2

前回から始まったコーナーです。今回は治療棟看護師の松下が担当となります。よろしくお願いします。まずは前回のおさらいです。皆様、NSTという言葉になじみは出てきましたでしょうか。NSTとは栄養サポートチームの略称で、医師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、リハビリスタッフ、看護師などの専門スタッフが、それぞれ知識・技術を出し合い、最良の方法で入所者の栄養支援をするチームです。

食べることは、生きること。口から食べる量が減り栄養が不足すると、病気になりやすくなったり、傷が治りにくくなってしまします。それを早い段階で発見していくために、栄養状態の評価する事が必要となります。私たち看護師は、皆様の身近で接することの多い職種、また24時間継続し

た関わりのできる職種です。普段の食事や生活の中で、入所者の変化を感じ取り、医学的な視点に生活者としての視点も合わせて総合的に評価し、多職種へ情報提供することが求められます。「最近食欲が減っているな。」「食べる時にむせる事が増えてきた。」等、気になる事や気づいたことがあれば是非声をかけて下さい。

ところで、私は3年前に摂食嚥下障害看護認定看護師の資格をとらせて頂いてから、第2水曜日と第4木曜日は入所者の嚥下評価を行うため、治療棟だけではなく園全体を回り嚥下障害の早期発見と早期訓練開始及び継続に努めています。「摂食嚥下障害看護師」「嚥下評価」と難しい言葉が出てきましたが、「嚥下」と

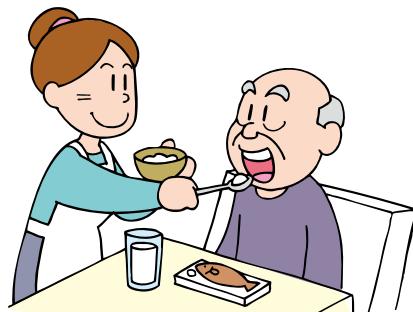
は食べ物を飲み込むことをあらわします。「嚥下障害」とは食べ物を飲み込む力が落ちている状態をあらわします。嚥下障害による誤嚥性肺炎での死者数が年々増えていることから、「嚥下障害」という言葉は最近、世間で注目されはじめています。嚥下障害は脳血管疾患や神経疾患等、本当に色々な原因で引き起こされますが、その原因の一つに加齢があります。人間は年を重ねていくだけで、食べ物を飲み込む力が落ちていってしまうのです。入所者だけでなく、職員にも症状があらわれる可能性が十分にあります。

水や味噌汁でたまにむせることはありますか？最近声が出にくいくらい感じることはありませんか？これらは嚥下障害の症状の一つです。食事や姿勢の工夫で改善することも多いので、症状が見られた時には看護師にお知らせ下さい。皆さんの飲み込む力の変化に早い段階で気付くことができる

ように、当園では4ヶ月に1回、栄養と嚥下障害の評価を行っています。

不安になるようなことをたくさん話したかもしれません、嚥下障害を予防する方法はあります。それは、よくしゃべることと、歯磨きです。誰でもすぐにできる予防法なので試して下さいね。入所者の皆様が、1日でも長く口から食べることができるように精一杯支援を行っていきたいと思います。

摂食嚥下障害看護認定看護師 松下 恵美



## 平成29年度 診療統計

	外来診療					特記		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	入院(人)	退院(人)	延患者数(人)
4月	175	343	518	43.2	12	103	10	1	1	2
5月	231	359	590	49.2	12	103	4	0	0	0
6月	268	369	637	49.0	13	95	8	0	0	0
7月	266	348	614	51.2	12	94	4	0	0	0
8月	277	383	660	55.0	12	94	2	0	0	0
合計	1217	1802	3019	49.5	61	489	28	1	1	2

\*皮膚患者悪性腫瘍切除術内訳 基底細胞癌：2件

\*入院内訳

4月：60歳男性

3月末から病棟入所者の看護度が上がっているため、現在、皮膚科入院診療は制限している。



## 人事異動

(平成29年5月1日～平成29年8月31日)

H29. 6. 30	則岡 静香	看護師(臨)	任期満了
H29. 8. 21	俵 あい	看護師	育児休業
	則岡 静香	看護師(臨)	採用

## 和光園日誌

(平成29年5月1日～平成29年8月31日)

- H29. 4. 18 療養所訪問 (法務局職員4名)  
 5. 10 療養所訪問  
 　　(住用村民政委員14名、担当役場職員1名、合計15名)  
 5. 18 療養所訪問 (法務局職員4名)  
 6. 19 療養所訪問 (美作大学教員1名、学生6名、合計7名)  
 6. 21 療養所訪問 (日本教育財団職員1名)  
 　　療養所訪問  
 　　(徳之島面縄小学校教職員4名、生徒24名、合計28名)  
 　　職員健康診断 6. 21・22・28  
 6. 29 園内ミニ運動会  
 7. 5 療養所訪問 (鹿児島県人権同和教育課職員2名)  
 7. 13 消防訓練  
 7. 20 園外レクリエーション (大和村)  
 7. 24 ふれあい看護体験  
 7. 27 第25回奄美和光園夏祭り  
 7. 31 療養所訪問 (朝日小学校職員30名)  
 8. 10 第54回奄美まつり 花火大会見物  
 8. 11 第54回奄美まつり 舟こぎ競技3チーム参加  
 8. 15 七夕まつり  
 8. 21 療養所訪問 (小宿中教職員15名)  
 8. 24 親子療養所訪問 (13名)  
 8. 26 有屋町内会 八月踊り

## 今後の行事予定

10月14日 ゲートボール大会 / 11月2日 慰靈祭

編  
集  
後  
記

厳しい暑さが続いていますが、みなさん体調は大丈夫でしょうか。私は今年の4月に転勤して来たのですが、暑いのが苦手なため奄美の気候に少々バテ気味です。今年の夏は台風5号の「50年に一度の記録的な大雨」により甚大な被害も発生し、島内の一部の地域では土砂崩れのため道路が寸断され孤立した集落もあったようですが、幸いにも当園では大きな被害はありませんでした。第106号では台風5号の影響で延期になった奄美まつり(花火、舟漕ぎ大会)についても掲載しています。最後に、今回の発刊にあたりご協力頂いた皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

編集委員 山口 春成